

橋梁の名称

橋名の選定にあたっては、旧橋名に対する歴史的適応と、新橋名に対する地理的適応を考慮し、さらに踏襲の尊重と名称の簡便を原則としています。

従来の橋梁を拡築したり取り壊して改築する場合の橋名は、旧橋名を踏襲しました。

新しく架設する橋梁の名称は、他の橋と混同しないよう同名を避ける、架設地の名称を参考にして簡便な新名称を選定するなど十分な考慮をしています。例えば、隅田川の新橋である清洲橋、蔵前橋、駒形橋、言問橋や、神田川に新設する聖橋等は、大正13年（1924）に懸賞募集をして決定しました。そのほかの一般橋梁は、大体2つの方法によって橋名を選定し、国と管理者である東京市で協議して決定しました。

①歴史的事跡によるもの

例えば後楽橋は、水戸藩邸（後樂園）の直前にあるため、千代田橋は、松平定信（楽翁公）の浴恩園に所在した千代の岩橋、千代の長橋の2橋にちなんで決定しています。

②地方的名称によるもの

町名、河岸名を採用して橋名とするのは旧式ですが選定の一方式としました。しかし、“東京”や“昭和”のように広範で総括的な意味を有するものは採用しないとしています。